

< 研究の経過と概要 >

わたしたち東山梨地区の「自治的諸活動」部会は、活動を始めて11年目になる。今年度は、東山梨地区の小学校13校の19名の教職員(管理職1名を含む)によって組織され、活動している。

1 研究テーマ「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」

テーマ設定の理由

社会規範の流動化、地域社会のつながりや人間関係の希薄化、価値観の多様化など学校を取り巻く環境は大きく変わり、その中で子どもたちの姿も変わってきている。日々の生活の中で、人との関わり方に問題を抱える児童が多くなってきたことを感じることが多い。

学校での「学び」の基本は、学級集団にある。一人ひとりの子どもが集団の一員として互いに認められ、楽しく生活し、学ぶための空間が確保できるような学級集団づくりが求められる。そしてさらに、自分たちの思いによって自治的な活動を創り出し、そこから学びあえる学習集団にまで高めていく必要があると考える。

そこで、本部会では、一人ひとりが認められる学級づくりをめざして、「一人ひとりの子どもが居心地の良い集団づくり」、「人間関係の絆を強め、人とのつきあい方を学んでいく場面づくり」について研究を進めてきた。今年度も、「子ども自らがよりよい学級集団を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるための手だて」について研究していくこととし、本主題を設定した。

2 研究の具体的内容と方法

(1) 低学年部会と高学年部会の2つの部会に分かれ、各個人のとりくみや実践を発表し、研究討議する。

【レポートの例】

エンカウンター、特別活動の充実、学級会の進め方、班長指導、朝の会・帰りの会の進め方、係活動、課題解決の手だてなど、学年の発達段階や各クラスの実態に応じた「自立をめざした学級づくりの手だて」について。

(2) 講師を招き、「学級づくり」についての研究を深める学習会を行う。

(3) 授業研究を通して「子ども自らがよりよい学級集団を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるための手だて」について学習を深める。

3 研究の経過

5月 7日 今年度の役員の決定

5月21日 今年度の研究の方向性の決定

- ・研究テーマ
- ・研究方法
- ・年間計画

6月 4日 実践発表 I

8月 4日 夏季学習会

①「学級力向上をめざす集団づくりの進め方」

講師：今泉教秋先生（牧丘第三小学校校長）

②研究授業 I の授業案検討

- 8月30日 研究授業Ⅰ
 - ・学級活動「みんなにがんばり賞をあげよう」（2年）
- 10月1日 実践発表Ⅱ
- (今後の予定)
- 11月26日 実践発表Ⅲ・県教研の還流報告
- 1月15日 研究授業Ⅱの授業案検討
- 2月 5日 研究授業Ⅱ
- 2月12日 実践発表Ⅳ・今年度のまとめ

4 これまでの成果

- ・各々の実践を発表しあう中で、学級づくりの悩みや抱えている問題などについて情報交換をすることができ、今後の学級づくりの参考となった。
- ・自治的な活動の手立てとして、当番活動や係活動のとりくみ方、生活班・学習班の使い方、エンカウンターや学級新聞についてのとりくみ方、居心地のいい教室のためにユニバーサルデザインを活用した学級環境の改善など具体的な方策について、話し合いを深めることができた。
- ・学習会では、共同研究者の今泉校長先生から学級づくりのためのレクや遊びの指導、リーダーの育て方、Q-Uやアンケートなどでつかんだ学級実態を学級集団づくりにどう生かしていくかなど具体的な事例をもとに学級力向上をめざす学級集団づくりの進め方について教えていただいた。「最初は『ほめられたい』でもいい、繰り返しいい思いや経験をすることで、めざす価値観に近づいていく」という話には多くの先生方が頷いていた。また、日々のとりくみの積み上げが大事であることも再認識させられた。大変有意義な学習会だった。
- ・研究授業を通して、子どもたちは、普段の学校生活の中での友達や自分のがんばりや良さを認め合うことができた。このことにより、今まで以上に互いを理解するとともに、自分もやってみようという意欲も持つことができた。自分への自信や前向きな意識を持たせることが大事であり、それがよりよい学級づくりにつながっていくことを学ぶことができた。
- ・実践発表や研究授業の回数を重ねるごとに、部会としての成果を積み上げつつある。今後も実践発表や学習会、研究授業を通じて、「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」「一人ひとりが認められる学級づくり」ができるよう学習をさらに深めていきたい。

5 共同研究者

- | | |
|------------|---------------------|
| 牧丘第三小：今泉教秋 | 塩山北小：鈴木百合子 |
| 加納岩小：雨宮正倫 | 奥野田小：植原恵子 前島国学 相川和彦 |
| 日下部小：廣瀬剛 | 祝小：高石圭子 赤星美佐 志村克人 |
| 後屋敷小：飯島裕明 | |
| 日川小：水上久美子 | 大藤小：岩下和子 |

山梨小 : 若月敬二郎 島田直美 菱山小 : 武井麻子 大村えり
八幡小 : 根津千尋 勝沼小 : 金井京子 (言十 19

名)

一人ひとりの自立をめざした学級づくり ～みんなにがんばり賞をあげよう～

甲州市立祝小学校 赤星 美

佐

1 はじめに

学習指導要領に、学級活動の低学年の内容として「学級を単位として、仲良く助け合い学級生活を楽しくするとともに、日常の生活や学習に進んでとりくもうとする態度の育成に資する活動を行うこと」と記されている。仲良く助け合える学級、また、楽しく生活し、且つ意欲をもって生活できる子どもたちの集団にするにはどうしたらよいのだろうと考えてみた。それには、各々に自己肯定感をもたせることや他者理解や認め合いが大切だと考えた。そこで、共通事項の(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全の、「ア 希望や目標をもって生きる態度の形成」と、「ウ 望ましい人間関係の形成」に関わって、子どもたち同士でがんばり賞を贈り合うという活動をすることにした。

この活動を通して、友だちと自分の良さに気づき、自分たちにもできる良いことを、率先して行う学級集団をめざしていきたいと考えた。

2 題材名 「みんなにがんばり賞をあげよう」

3 題材について

○児童の実態

男子16名、女子6名、計22名の学級である。明るく元気で、心やさしく素直な子が多い。学習面で個別の支援を要する児童が数名いる。

1年生の時の担任の異動により、2年生から担任が変わったが、1年生の時から約束を守って行動できていたため、混乱もなくスムーズに学校生活を送ることができている。掃除や給食当番・係の仕事などにも真面目にとりくむことができる。

日直が号令をかけるとき、「気をつけ、礼。」だけでなく、「4校時也很好頑張りました。この後、無駄口をしないで給食の準備をしましょう。」などと、自分たちで毎回声をかけてくれている。ある日の日直が、このような言葉を自分たち(二人の日直)で考えて言ったので、担任がすぐに褒めてあげたところ、次の日の日直も違う言葉を考えて言葉かけをし、それがクラス全体へと広がっていった。担任がそうさせたのではなく、自分たちで考えて、声をかけるようになったので、感心している。このように、自分たちで良いクラスを作っているという気持ちが見える子どもたちである。

休み時間には、男子は外でサッカーをして汗を流し、女子は、遊具などで遊んでいることが多い。男女一緒に遊ぶことは少ないが、クラスでレクをしたり、体育でドッジボールをし

たりする時には、もめることもなく仲良く遊ぶことができている。

5月に行ったQ-U検査の結果は、「親和的なまとまりのある学級集団」と診断された。昨年度に比べるとよい方向へ変化してきている。しかし、不満足群にいる児童が2人いたり、侵害行為認知群や否認群に属する児童も数名ずついたりするので、これらの児童が、満足して学校生活を送れるような学級をつくっていきたいと思っている。

本題材の指導にあたり、以下のような意識調査を実施した。

[調査月日：7月18日 対象人数22名]

<p>1 あなたは、自分のことが好きですか？ 好き 16人 嫌い 6人</p> <p>*好きな理由</p> <ul style="list-style-type: none">・友だちにやさしくしているから (3人)・友だちと仲良くできるから (2人)・友だちと一緒に遊んでくれるから・素直だから・がんばり屋さんだから・算数が得意だから・生きているから・ママに愛されているから・ダメな人がいても巻き込まれないから・自信をもっているから・字がきれいだから・プリントの間違ひを見つけられるから (各1人) 他 <p>*嫌いな理由</p> <ul style="list-style-type: none">・すぐ怒ってしまうから・かわいくないから・いじめられたりばかにされるから・いつもいじわるをしているから・人に嫌なことをいったから (各1人)
<p>2 あなたは、自分に自信がありますか？</p> <p>自信がある (14人) 少し自信がある (5人) あまり自信がない (1人) 全く自信がない (0人)</p>
<p>3 あなたの良いところは、どこですか？3つ書いてください。</p> <ul style="list-style-type: none">・やさしいところ (9人)・諦めないところ (3人)・がんばり屋さん (3人)・友だちを遊びに誘うところ (3人)・忘れ物をしないところ (2人)・嫌いな物を食べられる (2人)・好き嫌いが無い (2人)・給食を残さない (2人)・掃除をちゃんとする (2人)・意見がたくさん言える (2人)・ダメなことを注意する (2人)・友だちが困っていたら助けてあげる (2人)・知らない人でも挨拶する・元気に挨拶できる・返事がいい・大きな声で話す・学校を休まない・いつも元気・自由勉強を毎日している・整頓ができている・正直なところ・素直なところ・ほめられることが多いところ・サッカーが上手・いつも心がすっきりしているところ・自信があるところ・字をきれいに書くところ・テストで百点をとっている・係の仕事を頑張っているところ (各1人) 他
<p>4 「ほめほめシャワー」で、みんなにほめてもらって、どんな気持ちになりましたか？</p> <ul style="list-style-type: none">・とてもうれしい気持ち (13人)・気分がよかった (3人)・こんないいところがあるってはっきりわかった・たくさん友だちにほめられてよかった・かわいいねと言ってくれてうれしかった・手を挙げていない人は、よく考えてくれているんだなと思った・みんなを信用できる気持ちになる

・〇〇さんがふざけていたから、あまりいい気持ちにならなかった（各1人）

5 友だちの良いところがしのカードをたくさん書きましたか？

たくさん書いた（15人） 少しでも書いた（5人） 全然書かなかった（0人） 無答（2人）

1の項目は、自分のことが好きと答えた児童がほとんどだったが、嫌いと答えた児童が6人いることが気になる。「いつもいじわるをしているから」「人に嫌なことを言ったから」と書いた児童は、1学期に友だちに良くない言葉をつかって注意されたことがあるので、自分を改善したいと思っているためだと推測する。そのときは、二人とも、自分の言葉で人を傷つけてしまうということが分かっておらず、傷つけるつもりもなく、意地悪なことを言ってしまった状況だった。

いじめられたりからかわれたりと答えた子には、どんなことを言われるのが嫌なのか話を聞き、言った方の児童にも話をした。大人から考えると大したことではない内容なのだが、本人はまだ気にしているようなので、全員が居心地の良いクラスになるように今後もしっかり話を聞き、働きかけをしていきたい。

2の項目に関しては、想像以上に、自信があると答えた子が多かった。3の自分の良いところもいろいろな角度から書いていることがわかった。「友だちの良いところがし」で、カードを入れてもらったり、「ほめほめシャワー」でほめてもらったりしたことが、自信にもつながっているのではないかと考える。「ほめほめシャワー」は、帰りの会の時に、日直さんの良いところを、全員が言う活動だが、4の項目にあるように、ほとんどの子が、言われてとても嬉しく、いい気分になったと答えている。自分の良いところが確信できたり、友だちを信用できるようになったり、良い活動だったことがわかった。その後の「良いところがし」の活動に積極的にとりくむ意識づけにもなった。

○題材設定の理由

決まりを守って行動することや、係や当番活動をきちんと行うことなど、基本的なことができるクラスで、一見問題がないように見える。だが、人を傷つけるような言葉を無意識に言ってしまったたり、小さなことでも友だちに言われたことを気にして浮かない顔をしたりというような場面を目にすることを考えると、まだ望ましい人間関係が築けているとは言えない。また、自分のことが嫌いと思っていたり、自分に自信がもてなかったりする児童には、自己肯定感をもたせる活動が必要だと感じる。

そこで、友だちの良い行いを見つける活動を通して、友だちを見つめ、今まで知らなかった友だちの良さに気づかせる。また、その活動が自分自身の良さを知ることになり、自信をもてるようになる。それだけでなく、友だちの良い行動を知り、自分もできることがあったらやってみようとする。それが、クラス全体の意識を高め、良いことや優しいことをたくさんできるクラスへと成長する。このようになることを願い、この題材を設定した。

この題材を行うまでの活動として、前述のように、帰りの会で「ほめほめシャワー」を行い、友だちと自分の良いところを知るきっかけづくりを行った。また、4月当初から、帰りの会で、「良かったこと」という項目をつくり、今日、友だちにやってもらったことや友だちが頑張っていたことなどを紹介し合うようにしている。「このことは、帰りの会で言わなくちゃ。」などと、日常生活の中で、良くしてもらったことを意識して生活している様子が見えかわれる。また、友だちに「良かったこと」を発表してもらった時の児童の顔は、照れく

さそうだが、どの子もみんなとても嬉しそうでいい笑顔をしている。

これまでの活動に今回の題材を合わせることで、子どもたち一人ひとりが自信をもち、自分も友だちも大切にできるようになってほしいと思う。

○これまでのとりくみ

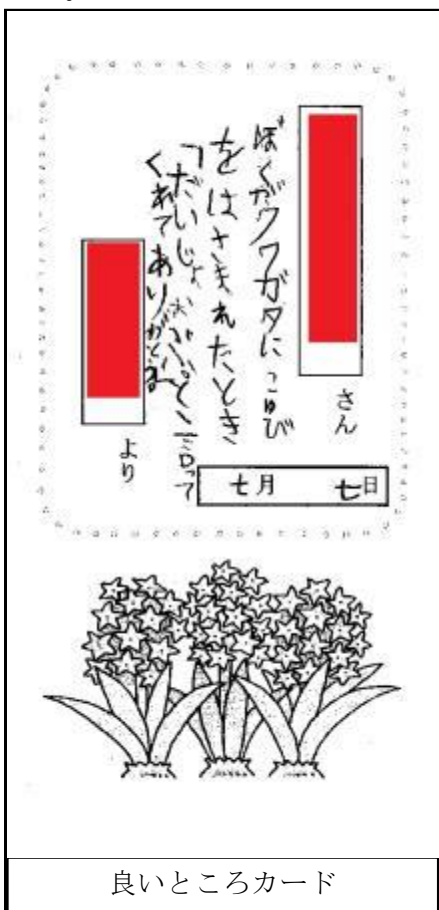
上述の「ほめほめシャワー」帰りの会の「良かったこと」「良いところさがし」のとりくみ以外の学級のとりくみは、次のものである。

①2年生の宇宙

教室の壁に惑星とロケットを掲示し、班員全員ができたとき（全員完食、全員発言、掃除が3日連続〇など）ロケットの下に金のシールを貼るようにしている。班替えをする前に、1番多くシールがたまった班の人に、一人ひとりが手作りプレゼントを贈ると決めて、とりくんでいる。また、クラス全員ができたこと（全員発言、授業の態度が花丸、忘れ物なしなど）に対しては、大きい星をつけ、目標の数になったら、レクをすることになっている。どの子もみんな「2年生の宇宙」を意識して生活している。

②構成的グループエンカウンターをまねて

ジャンケンをして、勝った人が負けた人に夏休みの思い出を聞くことができる「夏休みの思い出ジャンケン」。一人ずつ紙を見に行き、2枚の絵の違うところを班員に伝え合う「間違いさがし」など、友だちと関わり合う楽しい活動をするように心がけている。友だちと相談したり話をしたりしなければできないので、自然と肩寄せ合って活動していた。





良いところカード入れ

4 題材の目標

- ・活動に積極的に参加し、良さに気づくことができる。
- ・友だちの良さを認め合うことにより、自分にでもできる「良いこと」を考えることができる。

友だちの良さを考えるとともに、自分の。

5 本時の学習

- (1) 日時 平成26年 8月29日(金) 14:00～14:45
 (2) 場所 甲州市立祝小学校 2年教室
 (3) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点	評価(方法)
導入 2分	1 これまでの活動を振り返る	○事前にとったアンケートを元に、「ほめほめシャワー」や「良いところさがしカード」のとりくみが嬉しかったという結果だったことを伝える。	
	2 本時のめあてを確認する。(2分) 友だちの良いところを知り、 みんなにがんばり賞をあげよう	○友だちの頑張りを認め合うことが、これからの学校生活をより良くするための活動であることを確認しながら、学習のめあてにつなげていく。	
	3 「はてなさんはだれ？」のゲーム	○事前にゲームのやり方や約	○活動の意味

<p>展 開 38 分</p>	<p>をする。(10分) (ルール)</p> <p>①友だちが事前に書いてくれた「良いところカード」の内容を1枚ずつ読み上げる。</p> <p>②良いところを聞いて、それが誰のことか考える。(カードを全部読み終わるまでは、答えを言わない。)</p> <p>③はてなさんは、誰だったのか、ワークシートに書く。</p> <p>④全体の前で発表する。(なぜ、その子だと思ったのか理由も言わせたい。)</p> <p>⑤はてなさんが誰なのかわかったら、その子に贈るがんばり賞を考える。(何人かに発表してもらい、その中から1番嬉しいがんばり賞をはてなさんに決めてもらい、ホワイトボードに書く。授業後、賞状にして渡すことを伝える。)</p> <p>「はてなさんはだれ？」のゲームを全体で、2回行う。</p> <p>4 班になって、一人ずつ、自分ももらった「良いところ」カードを読みあげる。(事前に教師が1枚の紙にまとめておく。)(15分)</p> <p>カードに書かれていたことをもとに、残りの班員で、がんばり賞を考える。最終決定できるのは、自分とする。(ホワイトボードに賞を書く。)</p> <p>5 自分のもらったがんばり賞をみんなの前で紹介する。(5分)(ホワイトボードを黒板に貼り、見せ合う。)</p>	<p>束を伝え、混乱がなく、気持ちよくゲームができるようにさせる。</p> <p>○クイズの正誤にばかり気をとられるのではなく、自分の気づかなかった友だちの良いところに気づかせたい。</p> <p>○「サッカーがうまい」や「字が上手」などの得意分野だけでなく、「友だちの手伝いをしていた」や「優しい言葉かけをしていた」などの行動面での良いところに注目させたい。</p> <p>○「はてなさん」については、2つある5人班の児童を1人ずつ選択。</p> <p>○発表する順番は、教師側で決めておき、スムーズに話ができるようにしておく。</p> <p>○友だちの「良いところカード」に書かれていたことの中から、心に残ったことをがんばり賞にしてあげられるようにしたい。できるだけ、班員のがんばり賞が同じにならないように考えさせる。</p> <p>○「良いところカード」や友</p>	<p>を理解し、積極的に参加しているか。 (ワークシート・挙手)</p> <p>○本時の学習</p>
-----------------------------	--	--	--

	<p>6 みんながもらったがんばり賞や、「良いところカード」を参考に、これから自分がやってみようと思う「良いこと」をワークシートに書く。 数名に発表してもらおう。(6分)</p>	<p>だちがもらったがんばり賞を知ることにより、今後の自分をレベルアップさせられるように考えさせたい。</p>	<p>を今後の生活につなげていこうという意欲がもてたか。(ワークシート・発表)</p>
<p>ま と め 5 分</p>	<p>7 本時の学習を振り返る。 ①「はてなさんはだれ？」ゲームや、がんばり賞を贈り合う活動をして、どんなことを感じたかワークシートに書く。 ②感想を全体で発表する。(数名)</p>	<p>○「楽しかった」「嬉しかった」だけでなく、今後の生活の向上に繋がられるような感想を取り上げて紹介したい。</p>	<p>○友だちや自分の良さに気づき、今後の生活について考えることができたか。(ワークシート・発表)</p>

(4) 評価

- ・活動に積極的に参加し、友だちの良さを考えるとともに、自分の良さに気づくことができたか。
- ・友だちの良さを認め合うことにより、自分にでもできる「良いこと」を考えることができたか。



めあての確認後の「はてなさんはだれ？」ゲーム



6 実際の授業

〇〇さんだ
思います。
理由は、△△
の時、××し
ていたからで
す。



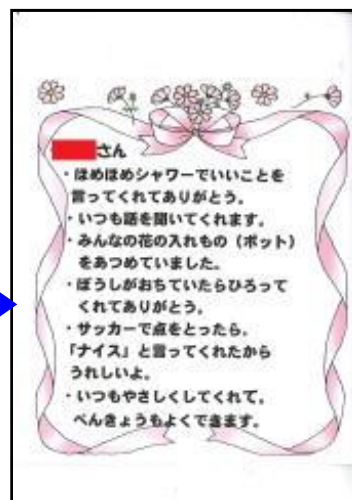
言ってくれた賞の中から自分がほしい賞を決める。



はてなさん班活動の仕方を説明する賞を考える。



自分のもらった良いところカードを読む。



良いところカードをまとめた物



友だちのがんばり賞を考える。



ワークシート



決まった賞をホワイトボードに書く。



全員のがんばり賞を確認する。



みんなががんばり賞をあげよう
2年 ()

1 はてなさんはだれ?

はてなさん1 さん

はてなさん2 さん

2 みんながもらった「よいところカード」や「がんばり賞」を見て、自分もやってみようと思ったことを書きましょう。

やさいをがんばってたべる

3 きょうのべんぎょうのかんそうを書きましょう。

いちいちなががんばりしょう
があつてみんないろいろな
をがんばっていたからまねし
ようと思いました。



○子どもたちが決めたがんばり賞一覧

頭がよくて言うことをちゃんと聞くで賞
サッカーボールをりょうききでけるで賞
めちやくちゃきれいにしたで賞
いけんが多いで賞
虫のおせわかんべき賞
書きぞめゆうしょうで賞
いっぱいあそんで賞
サッカー超超超うまいで賞

宇宙で賞
とてもやさしいで賞
字がうまいで賞
トマトをたべたで賞
サッカーうまいで賞
やさしいで賞
サッカーで点を入れたで賞
やさしいで賞

とてもやさしいで賞
字がていねいで賞
字がうまいで賞
やさしいで賞
ナイスで賞
やさしくてしんけんで賞

7 授業後の研究会から

○授業者の反省

- ・授業が、時間内に終わらなかった。これは、「はてなさんはだれ？」ゲームやはてなさんに がんばり賞を決めるところが長くなってしまったためである。子どもたちがたくさん の意 見を言ってくれたので、意見を途中で切れなくなってしまったが、子どもたちの意見を大切に することができたことは良かったと思っている。
- ・子どもたちの書いた良いところカードを全員6つにしぼったので、自分だけ少ないという 気 持ちをもたずにすんで良かったと思う。
- ・子どもたちは、真剣に考え、楽しく活動し、最後までよく頑張っていた。

○研究討議より

- ・「はてなさんはだれ？」で、なぜその子だと思ったかの理由を聞いたが、日常的に友だちの 良いところを子どもたち同士でよく見ていると感じた。
- ・これから自分でやってみようと思うことをワークシートに書く活動は、時間がかかるので、この授業に入れるかどうか迷ったが、入れてよかった。友だちの賞に書いた内容を、自分のこれからのとりくみに書いている子もいて、友だちから良い影響を受けていた。
- ・がんばり賞は、担任から子どもたちへあげることはよくあるが、子どもから子どもへあげる とりくみは、新鮮で良い活動だと思う。がんばり賞は、学期の終わりなどのまとめの時期に あげることが多いが、今回は、新しい学期のスタートの時期で、今後の意欲にもつながり、 時期的にもぴったりだった。
- ・今後も良いところさがしの活動を継続して、今回の授業を活かしていきたい。

8 成果と課題

今回の授業は、7月から日常的に行っている「良いところさがし」の子どもたちのカードをもとに行うことができた。また、帰りの会で「良かったこと」を発表し合っていたことも、授業の中の発言に大きく影響していた。日常の積み重ねを授業に活かしたことはとても良かったと思う。自分を認めてもらった喜びを味わえただけでなく、今後、自分は何を頑張ればいいのかということを考える良い機会になったと思う。

授業後も、子どもたちは、友だちの良いところを発表したり、目標をもって真剣に運動会の練習にとりくんだりしていた。決まりを守って生活することは、きちんとできる子どもたちなので、自分たちで改善点や目標を考え、さらに良いクラスや自分になるよう努力してほしい。そして、私自身も子どもたちが主体的に活動できるよう、子どもたちを見守り、励ましていきたい。